

4. 新聞等に掲載された活動

○看護学専攻

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
江藤宏美・教授	第 28 回日本助産学会 学術集会	朝日新聞	2014 年 2 月 9 日	毎年行われる日本助産学会の学術会議を会長として開催し、助産における研究、現状の課題等、社会に発信した。
江藤宏美・教授	第 28 回日本助産学会 学術集会	西日本新聞	2014 年 3 月 14 日	毎年行われる日本助産学会の学術会議を会長として開催し、助産における研究、現状の課題等、社会に発信した。
浦田秀子・教授	原爆被爆後の看護師の活動	朝日新聞	2014 年 5 月 23 日, 6 月 11 日	自らも被爆しながら救護活動をした看護師が「ナガサキノート」に連載された。第 2 回日本放射線看護学会学術集会で講演を依頼した経緯が掲載された。
江藤宏美・教授	第 28 回日本助産学会 学術集会	ペリネイタルケア：メデ イカ出版	2014 年 7 月	毎年行われる日本助産学会の学術会議を会長として開催し、助産における研究、現状の課題等、社会に発信した。
花田裕子・教授	市民公開講座	長崎新聞	2014 年 7 月 21 日	招聘講師のインタビューによる DV 被害の子どもへの影響について
宮原春美・教授 森藤香奈子・准教授 佐々木規子・助教	こころ 多様な価値 観はぐくむ 遺伝を 学ぶ	読売新聞	2014 年 9 月 18 日	出生前診断と関連して、多様性と唯一性を正しく伝えること、人の尊厳について幼いころから繰り返し学ぶことが大切であるという、本プロジェクトの基本概念が掲載された。
浦田秀子・教授	環境省受託研究報告 会	長崎新聞	2014 年 11 月 23 日	平成 25 年度から 3 年計画で放射線の健康影響に係る研究調査事業「福島県川内村復興支援に向けて」に取り組んでいる。中間年度にあたり研究成果の発表および復興支援にむけたシンポジウム等を行った。